

第 1 回伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議 会議概要（無記名版）

日 時：平成 29 年 8 月 8 日（水） 10 時 00 分～11 時 40 分

場 所：伊予市役所 4 階会議室

出席者：アドバイザー会議委員 7 名、事務局 6 名、委託業者 2 名

配布資料：資料① 第 1 回伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議議事次第

資料② 伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議委員名簿

資料③ 伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議設置要綱

資料④ 第 1 回伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議資料

1. 開会

- ・ 開会の言葉

2. 教育長あいさつ

- ・ 本会議の主旨について説明。（事務局）

3. 委員自己紹介

- ・ 各委員、事務局メンバーの自己紹介を行った。

4. 議題

（１）、（２） 委員長、副委員長の選出について

- ・ 委員長、副委員長の選出を行った。

事務局より委員長選出にあたって事務局より指名推薦を行いたい旨、説明があった。

事務局より徳永氏の委員長推薦があり、受諾頂いた。

副委員長には、徳永委員長より郡司島氏の推薦があり、受諾頂いた。

（３） 説明事項

①伊予市図書館・文化ホール等管理運営アドバイザー会議について

- ・ 基本計画の策定から 5 年が経っているが、本日が初めての顔合わせでもあるので、今までの検討経緯やアドバイザー会議の設置経緯について事務局より説明をお願いしたい。
（委員長）
- ・ 伊予市図書館・文化ホール等複合施設は平成 31 年 8 月開館予定で、建設については都市住宅課、管理運営等ソフト面については教育委員会社会教育課が担当して進めている。
- ・ 平成 29 年 3 月に検討委員会の協力を得て管理運営実施計画を策定した。本計画の具体的な実施に向けた有識者の助言を頂くためにアドバイザー会議を設置することとなった。
- ・ 主な検討事項として、施設の備品・設備、開館までの広報啓発事業、情報発信、開館記念事業、開館後の通年事業などについてご意見を頂きたい。

- ・ アドバイザー会議の組織体制については、複合施設という特性から図書館、文化ホール、地域交流機能などについて識見を有している方、また公平公正な視点で検討を進めていくという観点から、施設の運営に利害関係を有しない方に委員をお願いしている。
 - ・ 任期は委嘱状のとおり、6月21日の委嘱の日から平成31年3月31日までの2年度間とさせて頂き、役職により交代があった場合には後任の方に引き継ぎをお願いしたい。
 - ・ これまでの主な計画策定の経緯については、まず平成24年に市民参画・協働を目指して市民との対話を進めながら建設基本計画を策定した。平成26年からは学識経験者、市民の皆さん、文化団体の代表者など15名からなる検討委員会を立ち上げ、管理運営に係る基本計画の策定に入るとともに、ワークショップを開催し幅広い市民の声を集めた。平成27年度、28年度も検討委員会を続け、伊予市図書館・文化ホール等管理運営基本計画、実施計画を策定した。複合施設という特性を鑑み、検討委員会では図書館部会・カフェ部会、総合部会、文化ホール・地域交流機能部会という三つの部会を立ち上げ、市民の意見を管理運営実施計画に反映した。平成28年の検討の中では、管理運営のルールや、危険管理、安全対策、収支に関わる部分、また事業評価に関わる部分などを盛り込んだ実施計画を策定した。今後は、それを基にさらに具体的な検討を進めていきたい。
 - ・ 検討を進めていく中で、日中の話し合いの場に幅広い世代・立場の方に参加いただくことが難しく、潜在的な方々を取り込むということができていないという課題が生じている。行政としては、より幅広い方の市民参画を実現するためにも、市民一人一人の出番や居場所のある施設の形を検討していきたいので、そういった観点からもアドバイザーの皆様のご意見を頂きたい。
- これまでのワークショップ参加者については大きく2種類に分かれており、一つは比較的高齢で伊予市に長くお住まいの方々、もう一つはこれまでも市内文化施設を利用して施設のあり方に強い思い出のある方が多かった。もちろんそういった方々の具体的なご意見は一番貴重ではあるが、その一方で、今後40年50年先に利用者となる今の子どもたちなど若い世代にも親しまれる施設であってほしいという思いもあり、地域の学校の先生方にも関わっていただきたいと考えている。(委員長)

②報告事項（管理運営実施計画、施設の概要、現在までの経緯等）

- ・ 伊予市図書館・文化ホール等管理運営実施計画等について（資料④）、事務局より報告があった。説明の概要は以下の項目の通り。
 - ・ 第2次伊予市総合計画に基づくまちの将来像『まち・ひと ともに育ち輝く伊予市』について
 - ・ 伊予市図書館・文化ホール等建設基本計画に基づく施設の基本理念『学び はぐくみ つながる 出合いの広場』について
 - ・ 施設全体の事業方針について
 - ・ 通年事業の方向性について
 - ・ 実施計画における市民参画の方針について
 - ・ 事業計画の展開（プレイベント、開館記念事業、通年事業）について
 - ・ 組織計画・運営体制と市民参画について
 - ・ 利用規則（案）について
- 今までの事務局からの説明については大きく 2 本線になっている。一つは建物の実施設計について。市民参画のもと色々なご意見を頂きながらあのような形になった。もう一つは、ソフト面の話でこれが管理運営計画の基本計画と実施計画。大きな特徴としては、おそらく愛媛県内では初めて文化施設に対して本格的な市民参画でつくってきたということ。できるだけ市民の参加をということで、ワークショップを行いながら進めてきた。検討の現場では、それぞれの意見がぶつかって様々な議論があった。（委員長）
- 基本的には市民参加型の形をどのように具現化していくかということに興味がある。また、伊予市を学ぶということをうまく伝えていくために、こういったキーワードを使って説明していくのかということが、ポイントになると思っている。（委員1）
- 管理運営検討委員会からすると、「伊予市らしさ」とは何だという話が出てくる。新施設は砥部町、松山市、内子町にも車で行ける立地であり、そういった中で伊予市にある文化施設というのは何を目指したらいいのかも含めて検討をしなければいけない。（委員長）
- 本当に内容が多岐にわたり、整理する時間が必要かと思う。われわれの立場からすると、子どもたちがいかに使用しやすい施設かということに一番魅力を感じる。図書館・文化ホールが生涯学習の拠点と考えると、子どものときにいかに図書館・文化ホールを利用して良かったというような経験をさせることが、大人になってもさらに継続的にホール等を使う生涯学習へとつながっていくのではないかと考えている。例えば広報活動にしても、講師の方に学校に来ていただく方法もあるし、何らかの形でそれぞれの学校の子どもたちを招いて、何かイベントを開催するという事なども実施していけば、伊予市全体の子どもたちが、子どもの間に1度、2度はこのような図書館・文

化ホールを使用して良かったという経験を持つことができるようになる。そのような課程についても考えていけたらいいと思う。(委員2)

- 実は中学生と高校生というのは、文化施設に来てもらうのが難しい世代である。中・高校生向けプロジェクトを開催してもなかなか来てもらえない。(委員長)
- 「伊予市らしさ」というキーワードに関して言うと、各中学校の場合はそれぞれの学校で地域を素材にした取組みを総合的な学習の時間を使ってやっている。本校でも南伊予というものを再発見し、そこで学び、そこをふるさととして大切に思う、地域に貢献するということをメインにした活動をしている。そのようなものがつながっていくような施設になればいいと思う。中学生、高校生はすぐに社会人になって伊予市を離れると思うが、この施設で思い出を作った経験など、何か子どもたちの心に残るものがあれば、ここへ帰ってきた時にまたあそこへ足を運んでみようというふうになると思う。また地域に残っている者についても、色々な社会教育の場での活動等を通して、ここへ参画をするようなこともできる。今の段階では、この施設ができたらかここへ足を運ぶ、まずは来てもらえるような取り組みをして、子どもたちに意識付けができればと考えている。徳永委員長のお話にもあったように確かに中学生は忙しく、なかなかこういった文化施設へ足を運ぶことは少ないかもしれないが、基本的には市民参画の行事等があれば、参加はしやすいのではないかと思いますので、どのようなものを提供できるかということが重要。逆に学校としては、興味を持たせるような話しかけ、言葉がけをしていかなくてはと思っている。(委員3)
- いかに中高生にも興味を持ってもらえるような企画と運営をしないといけないか、ということだと思う。(委員長)
- 本校は高校なので、高校生、子どもたちがどのように関わっていけるのかを考えながら、これまでの話を聞かせて頂いた。過去の学校行事等で地域の文化ホールを非常にたくさん利用したことがあるので、そのようなことを踏まえて想像を広げながら、お話を伺っていた。市民、また市内の高校に来ている者として、愛着を持ってこの図書館・文化ホールへ高校生たちに足を運んでもらえたらありがたい。(委員4)
- 伊予市内の高校生だけでなく、市外から通ってきている高校生にも、伊予で3年間過ごしていただいて伊予市を好きになってもらい、地元へ帰ってもらえたら良いと思う。(委員長)
- カフェがあるとか、オープンスペースで、子どものフロアから会議室までワンフロアでやることは、とても素晴らしいと思う。色々な方がいらっしゃるので全ての要望に応えるのは非常に難しい。開館時間等についても運営の仕方次第なのかなと思う。(委員5)
- 開館の時間等については、実はどのような設定にすれば皆さんに一番理解して利用してもらえるのか、色々な例がありすぎて正直どれが良いかは分からない。管理運営検討委員会で基本計画や実施計画を策定する中では、取りあえず2年か3年程度行って

みて、様子を見ながら変えていくように進めるという検討をしている。例えば、夕方に図書館利用者がとても多ければ、今後開館時間をシフトしたり、休館日についても月曜日が休みの施設が多いので、取りあえず火曜を休館にしている。それでいいのかどうか等、一旦の枠組みは記載したが、それは今後、皆さんにご助力いただきながら検討していきたい。(委員長)

- 先ほども少しお話したように、市民参加をどのような形で実現していくのかということが肝だと思う。今年の郡中 200 年祭では市民の方、高校生や中学生、小学生が集まって、地元のことを伝えるためのクイズラリー企画を立ち上げて、いろんな人に参加してもらった。今回の図書館・文化ホールにしても、そうやって自分たちのアイデアが実現されていくということが管理運営実施計画の中に盛り込まれている。そういったときに公共施設の立場として、支援する、サービスをする施設という位置付けが多いが、事業をやっていくときに、これをやってほしいということを市民に頼む力が必要だ。200 年祭では、高校生や中学生は皆さん忙しく、校長先生に話しをしても、なかなか忙しいですという話で終わってしまった。しかし、そこを市民にやってほしいことをお願いして一緒になってやれる機会になってくれたらと思う。頼む先については、例えば学校や地域で活動している団体などがあり、そういう人たちとともに創っていく、共存の形ができるといい。そのときには、やはり地元を学ぶということで、どのような人たちを手伝うといいのかという観点では、今回の 200 年祭りの経験でいうと、普段お付き合いしている方以外の方と共にものをつくっていくということだと思う。先ほどのクイズラリーの例でもそうだが、取組の中で、ものごとをマネジメントできるような人材など、目の前の課題解決につながる人材が生まれると良い。あるいは協働の仕組みについて言えば、色々な団体の人もやっていけるような環境づくりを中間支援的な役割で担っていく大きな拠点として今回の施設が位置付けられるだろう。それらの拠点は、例えば双海、中山、郡中、南伊予など、いろいろな地区とつながっていき、その地区ごとに活動団体を育て、今ある団体とつながっていくことができるようになると思う。あとは具体的にどうやるかの議論をしていきたい。(委員 1)
- 施設の役割として、今ある地域にある団体や、ある仕事の関係の団体などを豊かにすることと、もう一つは、図書館やホールに行くときには、本を読む、音楽を聞きに行くときには普段の肩書・属性を捨てていくので、その場では普段と違った自分になれるし、そこで新しいつながり、別のネットワークというのがつくりやすい場所ということがある。一例を挙げると、お隣の内子町の内子座創建 100 周年事業に関わらせて頂いていて、内子高校の生徒会長さんにも関わってもらった。そうすると打ち合わせの場では、高校生の属性とは違った意見が出てきて、新たな気付きを与えたりする。地域に根差した開かれた場所になっている。(委員長)
- 皆さんのお話とかぶる部分があるが、そもそも文化芸術には多彩なものを受け入れるという幅の広さがあるので、施設の中にもそのような柔軟さとか、自由さのようなも

のがあって、色々なことができる環境をつくっていきたいと思う。そのためには、利用者たちが、その場所を自分の施設だと思い、自分たちのマナーで使っていけるというようなところまで行けば、お仕着せの規則があるからこうしないといけないという形ではない自主的な使われ方というものをしていくと思う。そういう場所が伊予市にあれば、自分たちが帰ってきてまた使いたい、という場所になると感じる。また、この施設は伊予市の中心部にあるので、どうしても周辺部の方々が、少し利用しづらいということはある。幅広い地域の方に活用して頂くためには市民をリードする人というのが必要であり、中心の場所であるこの新しくできる施設の中にも、それをつなげていけるような人の存在というのがとても大きいのではないか。人を育てるための人ということも大切だ。(副委員長)

- ありがとうございます。今、皆さんにお話しいただいたことを出来る限り網羅した計画を出したい。具体化、見える化していき、実施に落とし込めるかどうかというのが、これからの2年間の取組みになる。(委員長)

③開館までのスケジュールについて

- ・ 開館までのスケジュールについて(資料④)、事務局より報告があった。説明の概要は以下の項目の通り。
 - ・ 開館までのスケジュールについて
 - ・ プレイベントの企画、広報宣伝、条例・規則の策定など、開館までに必要な検討事項について
- 条例を策定しなければ施設の運営ができない。また、条例上、施設については正式名称で作成されるため、条例を作成する過程の中で正式名称が必要になる。施設ができるまではプレイベントによってこの施設を周知していく。広報はどれだけ行ってもし過ぎることはない。できるだけ早い段階で学校の方でも使っていただきたい。そうすれば、鑑賞も、舞台に立つことも含めて子供たちが大人になるまでに必ず一回はこの施設に行くという状態になる。(委員長)
- これまで市民の方と一緒につくってきたと思うが、市民の熱意が途切れないようにしていかなければならない。この会議の中でも市民参画の範囲の検討をすることになると思うが、そこをあまり遅くならない形で進めていきたい。(副委員長)
- ワークショップを行ったときに、夢を語ってくださいと話すと、色々なアイデアがたくさん出てきた。あれがやりたい、これがやりたい、そのときが一番楽しいのだが、お金、時間、人など様々な制限があるので、皆さんやはり夢は実現しないと思っている。でも、今はまだ熱があるので、100パーセントは叶わないかもしれないけれども、子どもたちが話し合ったことの、この部分はこの3年間で考えますというような気持ちをもって、ぜひ検討の中でご留意頂ければと思う(委員長)

→ また、補助金の申請のスケジュールについてお話すると、申請は8月から11月に行うことになる。これは伊予市の財政がそれなりに厳しいので、国、民間の財団、国がつくった財団等から補助金や助成金を受けることを考えている。事業開始の前年度の申請になるため、つまり平成30年に事業をやるとすると、今の時期か、遅くて秋ぐらいには、どのようなことを行いたいかが計画に落とし込まなければいけない。その課題がアドバイザー会議の議題として出てくる。特に国の補助金については申請後に連絡があり10日程度で細かい予算まで入れて、取らなくてはいけないということがしばしば出てくる。県の締め切りでも、3週間～2週間後。県がそれをまとめて、国に出す間が1週間。そのようなスケジュールですので、ぜひ皆さんが、こんなことができそうだとすることをたくさんいただいて、それを短い時間で落とし込み、システムをつくるという作業がもう今年から始まる。それが開館後も毎年続いていくので、何の助成をどのように取るのかということを勉強していかなくてはならない。そして、もし予定していた助成金が取れなかったときにどうするか、そういったことも考えながら進行していく必要がある。(委員長)

④アドバイザー会議の今後の進め方について

- ・ アドバイザー会議の今後のスケジュールについて(資料④)、事務局より報告があった。説明の概要は以下の項目の通り。
- ・ 次回以降、第2回～第5回の議題と開催スケジュールについて。

⑤その他

- ・ 次回のアドバイザー会議は9月上旬を予定している。詳細日程については事務局より後日ご連絡させていただく。
- 会議後、9月5日10時から、伊予市役所 4階会議室にて行われることに決定した。

5. 閉会

- ・ 閉会の言葉

以 上